

## サージャンも必見！明日から役立つマイボーム腺機能不全診療最前線！！

福岡 詩麻<sup>1,2,3)</sup>，有田 玲子<sup>1,4)</sup>，白川 理香<sup>1,3)</sup>，川島 素子<sup>1,5,6)</sup>，松本 玲<sup>1,7)</sup>

Shima Fukuoka<sup>1,2,3)</sup>

LIME研究会<sup>1)</sup>，大宮はまだ眼科西口分院<sup>2)</sup>，東京大<sup>3)</sup>，伊藤医院<sup>4)</sup>，慶應大<sup>5)</sup>，久喜かわしま眼科<sup>6)</sup>，レイ眼科クリニック<sup>7)</sup>  
LIME<sup>1)</sup>，Omiya Hamada Eye Cl<sup>2)</sup>，Tokyo Univ<sup>3)</sup>，Itho Cl<sup>4)</sup>，Keio Univ<sup>5)</sup>，Kuki Kawashima Eye Cl<sup>6)</sup>，Ray Cl<sup>7)</sup>

マイボーム腺機能不全(Meibomian Gland Dysfunction, 以下MGD)は、一般眼科臨床において最も頻度の高い疾患のひとつであり、ドライアイの主因でもある。MGDは患者のQuality of VisionだけでなくQuality of Lifeを低下させる疾患で、長崎県平戸市度島町の住民検診ではその有病率は人口の32.9%だった（2017年、LIME研究会）。MGDは年齢とともに増加することから、好発年齢が白内障を代表とする眼科手術施行年齢とほぼ一致することも相まって、眼科手術前後でのMGD発症は、術後の患者満足度低下の主因のひとつとして国際的に注目されている。今回のコースでは、MGDの診断・治療の基礎から最先端までご紹介するとともに、白内障手術前後での実際のMGD診療のコツについても実際の症例を提示しながらわかりやすく解説する予定である。

1. MGD診断 基礎から最先端まで  
スリットランプ、マイボグラフィー、  
インターフェロメトリーによる油層の質・量の評価
2. MGD治療 基礎から最先端まで  
マイボケア（温罨法、眼瞼清拭）と圧出  
点眼薬、内服薬、食事  
最新の治療機器
3. 白内障手術前後におけるMGD診療のコツ  
術前にしておくべきドライアイ・MGD関連検査  
術後のドライアイ・MGD治療戦略

を予定している。本コースの目標は、① MGDを的確に診断し、②重症度や患者の要望に合わせて治療法を選択し、③眼科手術後の患者満足度向上のために術前術後にMGD診療を組み入れられるようになることである。

---

【利益相反公表基準：該当】有

【IC：取得】有

【倫理審査：承認】有